





# 慣れ親しんだ学び舎よ、ありがとう 東綾中学校校舎お別れ式



来年度の東綾小・中一貫校開校に伴い、解体される東綾中学校校舎。これまで3749人が巣立った学び舎で11月19日、在校生や卒業生、関係者の方で校舎お別れ式が行われました。

## 伝統の精神根付く

東山村の東綾中学校は、昭和29（1954）年4月に開校。開校式には、体育馆はまだ骨組みしかできておりらず、サクラの花びらが舞い込んでいたそうです。



市内6中学校の中で最後に開校した同校は当時、「東綾ファイト」を合言葉に、ほかの学校に負けまいと勉学やスポーツに精励。その精神は今まで受け継がれ、同校の歴史を刻みました。

## 感謝を込めて最後のお別れ

今回の校舎改築に伴い、同校はゴールデンウイークや夏休み中の計6日間を「懐かしの学校公開日」とし、見学会を開催。約550人が来校し、慣れ親しんだ学び舎で思い出話を花を咲かせたほか、卒業時に埋めたタイムカプセルを開いた学年もありました。また、多くの学年で同窓会も行なわれ、見学会と合わせると延べ1000人を超える卒業生が訪れました。



校舎お別れ式では、歴代校長を代表し、宮川聰明さん（第14代校長）が祝辞を述べた後、開校当時の教員であつた上原幸一さんが思い出を披露。また、生徒会による写真のスライドショーでは、懐かしい校舎や卒業写真などが映し出されるごとに、歓声が上がりました。式の最後には、参加者で校歌を齐唱。全員の歌声が体育馆に響きわたりました。

同校は来年4月、市内2校目の小中一貫校としてスタート。先輩たちからの伝統を引き継ぐとともに、また新たな歴史が始まります。

